

平成 24 年 度

# 事 業 報 告 書

社会福祉法人 札 幌 厚 生 会

白 石 福 祉 園

# 施設 の 概 要

1	施設の名称	白石福祉園
2	所在地	札幌市白石区川北 2272 番地 8
3	施設の種類	生活保護法による救護施設
4	設置主体	社会福祉法人札幌厚生会
5	経営主体	同 上
6	設立年月日	昭和 29 年 12 月 14 日
7	創立者	助川貞利
8	理事長	上瀬戸正則
9	施設長	家久雅博
10	入所定員	100 名
11	職員構成	施設長：1 事務員：2 主任生活指導員：1 介護職員：17 看護師：2 栄養士：1 調理員：4 介助員：1 医師(2)嘱託 計 29(2)名
12	移転改築	平成 6 年 3 月 10 日（白石区川北に移築）
13	敷地面積	5, 0 4 3 m <sup>2</sup> （札幌市貸与）
14	建物面積	2, 8 8 1. 8 3 m <sup>2</sup> （札幌厚生会）
15	施設の沿革	

昭和 29 年 8 月札幌市において、天皇、皇后両陛下を迎えて北海道国民体育大会が開催されたが、この機会に札幌駅及び市内に散在する浮浪者ならびに一時保護者を桑園駅前にある元市営市場事務所を使用、収容したのが始まりである。その後、閉鎖するに当たり、帰住先のない人や他施設への収容替えが不可能な身体的、精神的に障がいがあり、独立して日常生活ができない人が 30 名程おり、この人々のため施設の設置を札幌市と協議し、現在の白石区平和通 5 丁目に市所有地 7,260 m<sup>2</sup>の無償貸与を受け、共同募金配分、寄付金により 280.5 m<sup>2</sup>の園舎を建築し事業を開始した。

利用者の激増により、昭和 30 年、32 年、38 年度道費補助により増築、定員 150 名となったが、平成 3 年度法人の利用者調整により定員 100 名となる。

平成 5 年 6 月には、市有地 5,045 m<sup>2</sup>の無償貸与を受け、永年の計画であった老朽整備による建替が行われ、平成 6 年 3 月 10 日完成（3/21 移転）し現在に至る。

# 総 括

平成7年からの傾向である右肩上がりの生活保護受給率と、年収200万円未満の一般低所得者と非正規労働者の増加の現状から、平成24年7月に厚生労働省の中間まとめである「生活支援戦略」は、生活保護基準の抜本的見直しと、第2のセーフティネットの構築に向け、地域における経済的困窮者や社会的孤立者の支援に向けた政策を進めることとなりました。

その状況下にある救護施設は、これまでの地域におけるセーフティネット機能の強化推進と、社会福祉法の理念に言うところの自立支援強化に向け、地域生活移行機能強化が目標として掲げられてまいりました。

これまでの施設利用者への経済的支援に留まらず、日常生活自立、社会生活自立並びに就労支援への事業として、保護施設通所事業や救護施設居宅生活支援事業とショートステイ事業への積極的な取り組みが求められております。

当施設においてもこれらの目標の実現に向け、日々の施設運営並びに利用者への処遇向上に努めておりますが、特に地域生活支援事業にあつては、現状としては難しい問題であることを認識せざるを得ません。すなわち、利用者本人が地域生活への自立への希望があるか否か、自立生活への意欲を持っているか否か、年齢・障がい等からして自立生活可能な対象者となり得るかどうかということであり、これらの実情を把握せずしては長期的な継続は困難と言えます。更には、地域生活への退所後に新たな施設利用者が順次充足可能かどうか、という先行きの不安が拭えません。

これらの課題に関しては、全国的な傾向からしても同様であり、地域事情や施設の運営事情もあり、各々の事業の実施施設はいまだ3~4割程度に留まっているのが現状であります。

しかし、全国救護施設協議会では、国の生活支援戦略の動向を見据えつつ、救護施設の機能拡充のために生活困窮者支援への行動指針をまとめたことから、あらためて積極的な取り組みと他制度との連携を図るべく対応をとる事が求められております。

平成24年度は、これらの施設の果たすべき役割を十二分に認識しつつ、あらゆる関連情報の収集と各種研修、会議への参加により職員の研鑽を高めることに努めて参りました。と同時に、事業計画に定めた事業の重点目標の実現を目指し、以下のとおり実践を進めてまいりました。

## 1・個別支援充実への取り組みについては!

この2年あまり介護職員をはじめ関係職員による情報のネットワーク化をパソコンの導入とともに進めてまいりました。前年に引き続き、全利用者へのアセスメントの記入(入力)を終えることを目標に取り組んでまいりました。担当職員が持つケースのうち、それぞれ1名については基本情報はもとより具体的な支援計画の作成の完成を目指しましたが、中には、パソコン活用の不慣れなこともあり、当初計画の全ケース完成の目標までには達成に至っておりません。

しかし、その中でも、これまででない形で利用者の生活意欲を充足させるための、個別ニーズの把握と支援計画の策定と実践を行い、利用者本人がこれまで以上の生き甲斐を見出しております。

## 2. 健康管理充実への取り組みについては!

利用者の高齢化により、日頃の健康管理と衛生指導の必要性が求められました。全国的に例年にないくらいの発症率であった、新型インフルエンザやノロウイルスの防止対策に対しては、保健衛生委員会主導のもとに、利用者・職員共々、関係個所の消毒・手洗い等の徹底を図るとともに、食品提供にあつては、各々の衛生・品質管理に心がけ、一人の発症者を出すこと無く終えることができました。ただこれまで年1名程度であった亡くなられた利用者が本年度は4名を数えることとなり、その点其々の病気のことは言え残念なことではありましたが、嘱託医や日頃から協力いただいている関係医療機関との連携により、健康状態の把握に併せ、病気等の早期発見と治療に心がけた結果、病状の悪化を最小限に抑えることができ、短期間の入院で施設に戻られることとなりました。もとより、札幌市保健所や保護指導課からの、食中毒警報をはじめとし、生活安全のための関係通知についても全職員への周知を図ってまいりました。

### 3. 効率的な資金運営への取り組みについては!

上半期における数名の利用者減に対し、新規利用者の入所ケースが伸びないことから、最終的に月初日平均在所者数が 97.25 名と目標の定員確保には至らなかったが、以前の井水導入による上水道料金の節減と、施設整備資金の繰上げ償還による成果として、効率的な資金運営ができたことから、損失計上することなく一年を終えることができました。

平成 6 年に移転後 18 年を経過した施設にあっては、当初からの計画的な施設設備のメンテナンスでは対応しきれない故障等が発生し、当初予算には計上していない支出が多々ありました。

しかし、以前より全体で取り組んでいる冗費の節減効果もあり、法人への資金協力はもとより、最終的には資金繰りにおいて、施設整備資金等への積立を計画とおりに実施することができました。

### 4・職員研修強化と職員態勢の充足への取り組みについては!

各種研修会等への参加は年度当初の計画とおりに職員を派遣することができました。また、施設内研修にあっては、研修委員会の企画と運営により、全職種を参加対象として①外部講師要請のもとで「施設内における虐待防止」の研修を実施し、また、札幌市の救急サポート事業への協力と職員資質向上・技術の習得のため、防災協会職員による「普通救命講習」を時間外に実施致しました。(救急救命等に関する研修会等への参加は、他の実施主体での研修等には計画的に参加しておりました)

本年度 2 名の調理員が退職(1 名定年退職)したことから、30 代の男子調理師 2 名を採用し、調理業務に支障無いように早めの対応ができたことと、2 名の育児休業取得者の復職もあり、それぞれの部署における職員配置態勢が整いました。臨時職員の入れ替わりも若干名ありましたが、その都度早めの補充により業務に支障無きように対応致しました。

### 5・地域との連携強化と安全対策への取り組み強化については!

地域組織や関係団体等との関係については、例年とおりの協力をいただき、各種行事のスムーズな運営ができたことと、ボランティア自身も施設生活等への理解と利用者との交流を深めました。

また、利用者の生活安全・安心して生活出来る環境づくりに、施設整備・備品の点検と整備を計画とおりに実施するとともに、防災意識の高揚と避難訓練等の実践により、訓練と言えどもその成果は都度上がっており、安心・安全な生活環境づくりに努める事ができました。

### 6・その他の委員会活動の取り組みについては!

#### 1)ヒヤリ・ハット委員会

利用者の起床時や移動時(車椅子・ベッド間)、更には歩行時での転倒や誤薬等による事象が増えつつあり、インシデントレポートの提出(報告)が目立ってまいりました。このことから居室内の配置換え、衝撃緩和シートの貼り付け等、個々の事故防止への対策を進めるとともに、施設内に潜在する細やかなリスクを未然に発見、防止できるよう委員会を中心に取り組んできました。

#### 2)メンタルヘルス・ケア対策委員会

利用者処遇の複雑化と多様化にともなう責任度合いの高まり感、日常生活の環境の変化と人間関係の複雑化により、ストレスを抱え悩む場面が増えることから、個人のメンタル面での環境整備を施設運営上においても、個人の問題だけに片付けることなく、組織的な取組が必要であることから委員会による企画・運営により、今年度も職員同士の交流の場を時間外に設けチームワークの確立に努めました。

#### 3)評価基準委員会

先に策定した施設の基本理念・基本方針を、職員会議等においてその主旨等再認識するとともに、職員個々があらためてそれぞれの立場と役割を自覚する機会を設けました。

計画にある施設内独自評価と第三者評価への取り組みは、具体的にはまだ進んでおりませんが、救護施設の求められている機能の強化と職員資質の向上のための意識づけをすることに努めました。

以上、平成 24 年度事業を振り返ると、社会福祉を取り巻く環境が依然として厳しさを増している状況下にはここ数年変わりはありませんが、利用者が安心して日々の生活ができるよう、個別支援計画の作成と処遇の実践を進め、施設として果たすべき役割を全職員の協力のもとに各種事業を実践出来たものと考えます。

# 生活指導

高齢化に伴い、ADLの低下や障がいの重度化という実態があり、また、他サービスが受けられない認知症を患った高齢者や精神障がい者の入所が多くなっている。

利用者全員に共通し、健康の維持・管理が重要であると考え、疾病の早期発見、治療のための各種検診の充実を図ると共に、日常生活の中での変化を見逃さないよう、各職種間の連携を強めるよう努めた。精神面においても、日常の対話を重視し、特に精神的な障がいを持っている方に対しては、話し合いを十分に持つようにし、施設生活への適応のために個別対応を図るようにした。また、障がいや疾病により生活上の課題がある利用者に関しては、ひとつの医療機関だけではなく、疾病に関してより専門的な医療機関を受診し、処遇の方向性を確認していくようにも配慮した。

個別ニーズへの対応のひとつとして全体の実施とはなっていないが、全救協個別支援計画書の作成から、個人の希望を生かし、且つ満足感が得られるように情報収集と利用者との関わりを大切にし、実施に移してきた。

また、利用者が特に楽しみにしている「買物・外出の日」、「喫茶・売店の日」も例年通り実施しすることで利用者の生活意欲の助長につながっていたと感じた。

日課については、利用者の実態に合わせゆとりのあるものにしながら、作業、クラブ活動、レクリエーションの充実にも努め、リハビリ訓練については、年々参加者が増加しADLが低下しないよう積極的に参加する姿が見られ、生活の一部として定着している。

地域との関係においては、開設記念行事等でボランティアとして参加していただき、地域での夏祭りにも利用者と参加することで、施設が地域社会の一部であることを地域住民の方々に理解してもらえるように努め、地域婦人部の方々による歌や踊りの慰問を通しての交流も図ることが出来た。

処遇の維持向上を図るために現在、利用者に対して統一した支援を実施する際には、北海道救護施設利用者支援マニュアル集を活用し、個別の基本情報の作成と援助計画の作成を実施し、個々の利用者への対応、援助方法を考えて関わりを持つように努めている。

緊急一時入所者の対応では、昨年度当番施設であったため今年度は12名の受け入れとなり、年度末には札幌市のホテル借り上げ事業により、年末から年度末までの利用者数が0であった。様々な生活歴の方が入所してくるため、より適切な対応と援助方法を各実施機関と話し合い、今後の救護施設の社会的な役割等を務めて行かなければならないと改めて感じた。

## 1. 利用者ひとりひとりのニーズに基づいた生活を保障していく

健康で明るく生き甲斐の持てる生活を送ることができるよう、一人一人の身体的、精神的な状況把握に努め、作業参加や各クラブ活動への参加を促した。また、日常生活での自立を促す意味でも、自分で「できる」ということを大切にし、本人の意思の尊重、努力への評価に配慮し、意欲の助長を促すよう努めた。高齢者や障がいの重い利用者に対しても、健康管理に十分配慮しながら、利用者同士、また、職員とのふれあいも生き甲斐のひとつであることから、日常生活の中での関わりを多く持つように努めた。

## 2. 個別指導

担当職員との関わりを重視しながら、個々の日常生活の把握に努め、本人との話し合いの場面を大切にしながらニーズに応じた援助を進めた。家族との交流については、広報誌「みちしば」の送付のほか、日常の中での電話連絡やハガキ・手紙の送付にも配慮し、交流を図った。ふるさと訪問は、自分の故郷にもう一度行ってみたい、親族に会いたい、墓参りに行きたい等の希望も含めて実施した。親族と交流状況の良い利用者は一緒に行ってもらおうようにもした。職員引率で実施したのは下記の通りである。

- |   |      |     |        |     |
|---|------|-----|--------|-----|
| ① | 8/ 8 | 滝川市 | → 墓参り  | K 氏 |
| ② | 8/ 8 | 三笠市 | → 姉宅訪問 | H 氏 |

利用者の希望があっても家族の受け入れが出来なかったり、逆に家族の理解があっても利用者の体調が悪かったりということで実現できなかった面もあった。

## 3. 個別支援計画

全救協による救護施設個別支援計画書への取り組みを段階的に進め、今年度は全利用者のアセスメント処理と総合的支援目標の完成を目標に進め実施してきた。

全体の目標完成とはいかなかったが、少数の実施できたケースもあり、その中で本人の希望である「釣堀に1人で出かける」という目標から、担当職員と一緒に目標に向け実施し、現在は一人で外出するまでに至り、利用者の自信に繋がってきたと感じられた。

来年度は個別支援計画の検討の場を増やし、早い段階で全ての利用者を対象に、個別支援計画を実施できるよう進めて行きたい。

## 4. 作業

今年度の作業も、従来の箸作業に加え、新箸作業の石狩鮭の作業と三つ折加工箸作業の3種類を行ってきた。新しい作業の参加人数も、多少は増えてきたようで、今後に期待が持てるようになってきた。今後も作業の重要性を理解してもらい、しっかりとした結果を残していきたいと思う。

また、数種類の作業を行うことで各人の技術や意欲の向上につながっていくと思う。

### 平成24年度作業実績

- ・総収入金額 287,450円（平成23年度 272,950円）  
（内、旧作業分：146,600円、新作業分：140,850円）
- ・一人当たりの収入金額（平均）  
旧作業分 3,257円（参加者45名）  
新作業分 3,706円（参加者38名）

今年度は昨年より、なすびとピーマンの本数を多くした結果、かなり多く収穫出来た半面今年もりんごは、全く実がならず、またミニトマトの方も強風のためにほとんど落ちてしまい昨年よりかなり収穫量が少なくなってしまった。

## 平成24年度収穫

さくらんぼ	7.0 kg	なすび	35.3 kg
ピーマン	74.3 kg	枝豆	18.0 kg
ミニトマト	23.6 kg	白ぶどう	30.0 kg
とうもろこし	105本	黒ぶどう	28.0 kg

## 5. リハビリ訓練

今年度も昨年度同様の回数を行うことが出来た。器具の使い方や使用する順序を工夫しながら、限られた時間内で上手く実施することが出来た。

年間実施回数	64回
平均参加人数	18名

柔道整復師の来園も5年が経過し、専門的な施術が必要な方に週1回ですが行っており、今後も継続していきたいと思えます。

年間実施回数	49回
平均参加人数	7.6名

## 6. 防災体制

今年度も計画通りに訓練を実施することが出来た。また、年2回業者による防災設備の点検を実施し、不備な点が判明した場合には、早急な対応のもと、修理等の適切な対応をしてきた。訓練時における二次災害にも充分注意して行ってきた。

### 訓練実施状況

実施月日	訓練内容	備考
4月9日～27日	教育訓練	各部署ごとに実施（職員）
5月14日	総合訓練	日中想定・消火訓練含む
6月8日	部分訓練	非常用スロープ使用
7月11日	避難訓練	夜間実施
8月2日	避難訓練	検証制度に基づく
9月26日	防災訓練	地震想定（昼食は非常食）

## 7. クラブ活動

利用者個々の能力や特性に合わせ、情緒の安定を図り、余暇活動に結びつくように配慮し、各クラブを実施してきた。決まった人だけが参加するのではなく、できるだけ多くの利用者が参加できるよう工夫して参加を促し、施設生活の中での楽しみになるよう努めた。練習の成果は、合同運動会や演芸会、新年会の地、慰問の時にも披露する機会を作った。〔別記3〕

## 8. 自主的活動

お互い助け合いながら、また、自分たちの生活を主体的に送ることが大切であり、日常生活の中での様々な役割分担の他、全体集会や代表者会議等の進行に積極的にかかれるよう援助した。また、ミニ集会やこうした各会議の中で、意見を発表し、相手の意見を聞くことでお互いを理解できるように働きかけた。大相撲星取りなどの余暇活動にも積極的に関れるよう援助し、パークゴルフも行った。

## 9. 教養娯楽

利用者個々の希望が反映されるように個別レクを重視し、状況に応じての回数増を図って実施した。

また、全体行事でも利用者の希望を生かし選択できるように情報提供し、より多くの人に参加できるようにボランティアの協力を得て実施した。一泊旅行も体力に合わせ、ゆとりを持って実施できるように3班に分けて実施した。地域の交流においても、合同夏祭りで町内会のよさこいチーム「舞花鈴」に踊りを披露して参加してもらい、慰問の機会も恒例となっている。

※各棟グループレク実施状況は〔別記2〕のとおりである。

## 10. 給食

エネルギー量をはじめとし、各食事摂取基準は十分に満たされており、健康維持、生活習慣病、合併症の予防を図ることを目標とした献立作成及び食事提供に努め、食事療法を必要とする疾病者食の対応も調理職員の理解と協力をもって充実した食事提供ができました。

また、食中毒・食事故・給食の安全性についても、検収・検査・点検・管理を充分に行い、職員の衛生管理・各研修への出席等安全な食事提供を努めました。

利用者に食の楽しみを感じてもらうため、それぞれの季節の旬な食材・行事食行事カード、また、人それぞれの嗜好を考慮するために個別の献立をはじめとし、選択食・お楽しみ献立・誕生会の食卓での鍋料理の実施を行い、好評に終えることができました。

しかし、昨年度に引き続き、食材等々の震災や地球温暖化の影響による作物の不作やバイオ燃料化による物価の上昇に伴い、給食原材料の高値安定傾向が見られたが、給食費の増には繋がらないように努力致しました。

今後も嗜好調査を実施し、利用者へ個別の栄養指導（管理）を行い、より健康維持に務めていきたいと考えております。

※利用者の食事状況は〔別記4〕のとおりです。

## 11. 嗜好品

利用者の嗜好を重視しながら、健康面への影響も考え、疾病誘因とならない低カロリー甘味料を使用した適当量の支給を努めた。今後も利用者の加齢、疾病に伴う嗜好品の提供に努めていきたいと考えている。



## 1 2. 健康管理

利用者の高齢化に伴い、各種健診、施設内治療、日常生活の中で利用者の変化に気づき、早期対応・治療が行えた。今年度もラジオ体操・散歩の積極的参加を促してきた。今後も利用者の健康を考え、充実させていきたいと感じた。インフルエンザ、ノロウイルスに関しては、早い時期にインフルエンザワクチン接種を行い、1日4回の施設内消毒、通年を通してのイソジンによるうがい、手洗いの励行を徹底し、結果罹患者の発生はなく未然防止につながったと感じております。

### 月別患者数

科別	月別 区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		通院者数	延べ人数	通院者数	延べ人数	通院者数	延べ人数	通院者数	延べ人数	通院者数	延べ人数	通院者数	延べ人数	
内 科	通院者数	92	89	80	90	82	81	93	97	95	85	92	95	1071
	延べ人数	198	178	160	180	164	162	172	196	190	170	185	190	2145
精 神 科	通院者数	35	50	40	36	35	35	36	35	37	35	36	42	452
	延べ人数	70	100	80	72	71	75	78	73	75	74	75	84	927
皮 膚 科	通院者数	39	42	45	41	39	39	39	39	44	39	41	40	487
	延べ人数	40	45	50	45	39	39	40	40	45	40	45	43	511
外 科	通院者数	2	4	1	4	2	3	2	2	2	1	2	1	26
	延べ人数	2	4	1	5	2	3	2	2	5	1	2	1	30
整形外科	通院者数	8	9	19	17	12	8	11	13	19	13	18	17	164
	延べ人数	8	9	27	18	18	11	14	15	25	21	22	25	213
歯 科	通院者数	2	3	4	2	2	10	9	6	6	6	7	6	63
	延べ人数	2	5	12	10	6	12	15	22	20	19	20	11	154
脳 外 科	通院者数	5	8	13	3	6	3	4	8	5	5	7	3	70
	延べ人数	5	10	15	5	6	3	5	9	5	5	7	3	78
耳 鼻 科	通院者数	7	5	13	7	7	7	1	5	5	4	5	4	70
	延べ人数	7	7	13	8	7	7	2	8	5	4	5	4	77
眼 科	通院者数	9	11	11	12	6	11	8	8	9	7	9	10	111
	延べ人数	9	12	13	13	6	11	10	9	10	8	12	11	124
循 環 器	通院者数	1	1	3	2	1	1	--	1	2	1	1	2	16
	延べ人数	1	1	4	2	1	1	--	1	2	1	1	3	18
泌尿器科	通院者数	17	14	13	12	10	11	13	15	15	17	15	15	167
	延べ人数	17	18	14	13	10	12	15	18	15	18	19	18	187
肛 門 科	通院者数	1	1	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	2
	延べ人数	2	1	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	3
呼吸器科	通院者数	--	--	1	--	--	--	--	--	--	--	--	--	1
	延べ人数	--	--	1	--	--	--	--	--	--	--	--	--	1
乳腺外来	通院者数	--	1	--	1	--	--	--	--	--	--	--	--	2
	延べ人数	--	1	--	1	--	--	--	--	--	--	--	--	2

## 主な年間行事実施状況（全体レク）

月 日	行 事 名	参 加 人 数	内 容
4. 5	日帰り外食1班 (シャトレゼ)	利用者23名 職員 8名	恒例となっている食事レクに行ってきました。昨年度風邪で行けなかった2班が、ガトーキングダム・シャトレゼに出かけてきました。今回は女子棟のバイキング形式で、色々なものを楽しみながら食事されていました
4. 16	日帰り外食2班 (シャトレゼ)	利用者22名 職員 8名	今回は男子棟のバイキング形式で、色々なものを楽しみながら食事されていました。
4. 19	第32回 カラオケ 交 流 会 (会場：福祉園) (司会：福祉園)	出場者 6名	福祉園集會室に救護3施設の利用者が集まり各施設5～6名が出演し、自慢の歌を披露しました。最後は全員で合唱して閉会となり、久しぶりに仲間との再開を楽しむことができました。
6. 13 ～14	一泊旅行 定 山 溪 ホテル・ミリオーネ	利用者22名 職員 8名	ホテルへ到着し、お部屋でゆっくりする人、お風呂に入る人、買物する人と個々に自由な時間を過ごしていました。夕食も美味しく頂き、良い気分転換になりました。
6. 28	白石福祉園夏祭り	全 員	今年度より単独で行うことになった初めての夏祭りでしたが、当日は地域の方々やボランティアの方々に来て大いに賑わいました。アトラクションはパルーンアートの方が来て場を盛り上げてもらい、楽しいひと時を過ごせました。
8. 7	七夕飾りつけ 合同花火大会	全 員	毎年、福祉園の玄関ホールで七夕の飾りつけを行いました。その夜、静心寮と合同で花火大会を行い、夏の夜風に当たりながら変わりゆく季節を感じました。
8. 14 15	合同盆踊り 合同仮装盆踊り	全 員	福祉園と静心寮の間にやぐらを立て、それを中心にみんなで盆踊りを踊りました。仮装盆踊りでは、施設ごとに仮装を楽しみ、夏も終わるなど感じた2日間でした。
9. 5	第 1 2 回 パークゴルフ大会 (さとらんど)	利用者10名 職員 8名	4つの救護施設でさとらんどに集まり、パークゴルフの腕を競い合いました。惜しくも優勝は逃しましたが、来年こそはと言い合いながら帰りました。
9. 6	遠 足 レ ク 川 下 公 園	利用者24名 職員 8名	近くにある川下公園への遠足を行いました。その後は、敷物を敷いてのお弁当を楽しみ、食後にパークゴルフや散歩を楽しまれ、季節を味わうことができました。
9. 12 ～13	一泊旅行 登別ホテル まほろば	利用者15名 職員 6名	ホテル到着後は買い物や温泉を楽しみました。夕食時の宴会ではたくさんのご馳走を堪能し、カラオケで得意な歌を披露して盛り上がりました。
9. 14	敬 老 会 (園 内)	全 員	70歳以上の方のお祝いで、今年は1名の方が新たに仲間入りをし、57名の方がお祝いを受けました。園長からお祝いの言葉を貰い、記念品の贈呈があり、敬老者の代表者からお礼の言葉がありました。
10. 11	白石区労連女性部慰問 (園 内)	全 員	毎年待ちに待ったも「白石区労連女性部」の皆さんに来園していただき、色々な催し物をしていただきました。最後は北海盆踊りを全員で踊り、来年も来てねと話していました。

10.17	第38回合同演芸会 (菊水元町センター)	利用者19名 職員名	各クラブの活動の成果を発表するため練習して、その成果を発表しました。自由クラブはファッションショーを披露し、舞踊クラブは練習していた「夫婦一生」を披露して、十分な成果を果たせました。
11.8	第58回開設記念行事	全 員	多くの訪問客が訪れ、大いににぎわいました。焼き鳥、飲物、喫茶コーナー、お寿司コーナーがあり、多くの訪問客や利用者が開設記念を祝っていました。
11.26	園内演芸鑑賞 (園内)	全 員	今年度も「草舞弦」の皆さんに来園していただき、日本舞踊や民謡を演奏していただきました。今年は「日本」をイメージした内容で皆さん聞き惚れていました。
12.17	もちつき	全 員	玄関ポーチにて園生の手でもちつきを行いました。交代でもちをつき、暮れの季節感を味わいました。
12.20	クリスマス会	全 員	例年通り、カラオケ大会、音楽クラブによる発表、職員による出し物のじゃんけん大会、サンタさんによるプレゼント、聖歌隊による行進、クリスマスの食事と年に一度のお祝いを楽しみました。
1.8	新年会 (園内)	全 員	カラオケ大会や舞踊クラブの演舞で正月のお祝いをしながら、お互いに今年もよろしくという気持ちで一緒に歌を歌ったりして挨拶を交わしました。
1.19	合同カルタ大会 (静心寮)	全 員	合同カルタ大会は精心寮での開催となりました。今年は「北海道弁カルタ」「地名カルタ」が加わり、おおいに盛り上がっていました。
2.2	節分 (園内)	全 員	今年も集会室で年男・年女の方が元気良く豆撒きを行いました。豆まき終了後には年男・年女の方から皆さん一人ひとりに甘納豆を手渡しされ、美味しく頂くことができました。
2.14	園内ゲーム大会	全 員	園内のゲーム大会で福祉園独自の「福祉園カルタ」、職員が仕事の合間で作ったストラックアウトを行いました。どちらのコーナーも参加者が多数で、とても楽しんでいただくことができました。また、ゲーム終了後には、食堂で甘酒を味わいました。
3.11	日帰り外食1班 (シャトレゼ)	利用者25名 職員9名	恒例となっている食事レクに行ってきました。今回は女子棟のバイキング形式で、色々なものを楽しみながら食事されていました。
3.18	日帰り外食2班 (シャトレゼ)	利用者22名 職員9名	今回は男子棟のバイキング形式で、色々なものを楽しみながら食事されていました。
3.28	日帰り外食3班 (シャトレゼ)	利用者27名 職員11名	今回は会食形式で、普段とは違う雰囲気の中緊張したのか、最初は静かに食事をされていました。次第に雰囲気にも慣れ段々と会話が弾み良い気分転換になりました。

## 各棟グループレク実施状況

### 〈特室〉

月 日	行 事 名	参 加 人 員	内 容
5.10	個別外食 とんでん森林公園店前	利用者 3名 職 員 3名	<p>身体に障がいのある方や車椅子の方も多い特別棟は、ほぼマンツーマン体制でレクを実施しました。</p> <p>移動の際は、施設自動車（車椅子のまま2名乗車）を利用したことで動きも自由でありました。買い物や食事の他に最も利用者の方にとって大切な外に出て気分転換を図って頂く事も出来たと思われます。</p> <p>各自、ゆっくりと店内を回り、思い思いに買い物を楽しんで頂け、昼食も利用者の方の希望により店を決め、車で移動して別の店で摂るということも行いました。</p> <p>また長時間の移動が難しい方に関しては施設内にて出前を取り、気分転換を図っていただきました。</p>
5.28	個別ショッピング 厚別西友	利用者 5名 職 員 4名	
8.13	個別外食 とんでん森林公園店前	利用者 4名 職 員 3名	
9.10	個別ショッピング 厚別西友	利用者 6名 職 員 4名	
7.7	出前 (福祉園内)	利用者 11名	
7.12	出前 (福祉園内)	利用者 11名	
11.13	出前 (福祉園内)	利用者 3名	

### 〈各棟〉

月 日	行 事 名	参 加 人 員	内 容
5.21	ショッピング (厚別西友)	利用者 10名 職 員 5名	天候に恵まれ気持ちの良い空気の中、色々な動物と触れ合ってきました。園外で昼食をとり、おおいに楽しんで頂けました
5.16	ショッピング (厚別西友)	利用者 13名 職 員 5名	天候に恵まれ気持ちの良い空気の中、色々な動物と触れ合ってきました。園外で昼食をとり、おおいに楽しんで頂けました
6.18	ショッピング (東札幌ダイエー)	利用者 12名 職 員 7名	天候に恵まれ気持ちの良い空気の中、色々な動物と触れ合ってきました。園外で昼食をとり、おおいに楽しんで頂けました
7.2	細川たかしコンサート (ニトリ文化ホール)	利用者 3名 職 員 2名	細川たかしさんのコンサートに行ってきました。大きなホールで歌声などを楽しんでいただきました。
7.5	動物園見学 (円山動物園)	利用者 2名 職 員 1名	動物園へ希望される方のレクを実施しました。色々な動物などを見学し、気分転換となり、食事をして帰ってきました。
7.12	水族館見学 (サンピアザ水族館)	利用者 5名 職 員 2名	水族館へ希望される方のレクを実施しました。色々な魚などを見学し、気分転換となり、食事をして帰ってきました。

8.9	ショッピング (苗穂ジャスコ)	利用者 10名 職員 5名	天候に恵まれ気持ちの良い空気の中、色々な動物と触れ合ってきました。園外で昼食をとり、おおいに楽しんで頂けました
8.16	ショッピング (厚別西友)	利用者 4名 職員 2名	天候に恵まれ気持ちの良い空気の中、色々な動物と触れ合ってきました。園外で昼食をとり、おおいに楽しんで頂けました
9.19	日 帰 り 温 泉 (つきさむ温泉)	利用者 8名 職員 3名	今年度はつきさむ温泉に行ってきました。食事内容も、お寿司に天ぷら、蕎麦と利用者の方が好むものであり、ゆっくり食事と温泉を楽しむことができました。
9.20	外 食 ( 和 食 ) (とんでん森林公園店前)	利用者 15名 職員 5名	自立した方を対象にとんでんへ外食(和食)に出かけました。天ぷらやお寿司など自分の好きなものを選び食べることができ、楽しむことができました。
9.26	外 食 ( 和 食 ) (とんでん森林公園店前)	利用者 7名 職員 4名	自立した方を対象にとんでんへ外食(和食)に出かけました。天ぷらやお寿司など自分の好きなものを選び食べることができ、楽しむことができました。
10.4	外 食 ( 和 食 ) (とんでん森林公園店前)	利用者 13名 職員 5名	自立した方を対象にとんでんへ外食(和食)に出かけました。天ぷらやお寿司など自分の好きなものを選び食べることができ、楽しむことができました。
10.15	外 食 ( 洋 食 ) (ガスト厚別西友店)	利用者 8名 職員 4名	自立した方を対象にガストへ外食(洋食)に出かけました。ハンバーグやパフェなど自分の好きなものを選び食べることができ、楽しむことができました。
10.22	外 食 ( 中 華 ) 中華レストラン暖流	利用者 7名 職員 4名	自立した方を対象に暖流へ外食(中華)に出かけました。チャーハンなど自分の好きなものを選び食べることができ、楽しむことができました。
11.15	ショッピング (厚別西友)	利用者 5名 職員 3名	天候に恵まれ気持ちの良い空気の中、色々な動物と触れ合ってきました。園外で昼食をとり、おおいに楽しんで頂けました
11.19	外 食 ( 洋 食 ) (ガスト厚別西友店)	利用者 7名 職員 3名	自立した方を対象にガストへ外食(洋食)に出かけました。ハンバーグやパフェなど自分の好きなものを選び食べることができ、楽しむことができました。
12.6	外 食 ( 和 食 ) (とんでん森林公園店前)	利用者 12名 職員 5名	自立した方を対象にとんでんへ外食(和食)に出かけました。天ぷらやお寿司など自分の好きなものを選び食べることができ、楽しむことができました。

【別記3】

ク ラ ブ の 実 施 状 況

クラブ	参加人員		実 施 経 過 と 効 果
	使用者	職 員	
習 字	20	3	多くの人が参加出来るように、手本をみながら毛筆・ペン習字に取り組んだ。七夕飾りの短冊の作成も行い、年中行事として、書き初めを行う等季節感を盛り込んだ。作品は廊下に掲示し多くの人の目に触れるようにした。
舞 踊	3	4	踊りの先生や職員と一緒に園生が通年を通して練習していき、合同演芸会、新年会に『夫婦一生』を披露し、練習の成果を発揮することができた。
手 芸	10	3	個々のペースで無理なく楽しみながら参加できるように工夫した。刺し子や小物作り、編み物等、時間内でできなくても、各自の余暇時間を利用して仕上げるようにした。
音 楽	14	4	多くの人が音楽を通じて楽しめるように、カラオケや、DVD鑑賞の時間を多く持つようにした。クリスマス会ではみんなでクリスマスソングを合唱した。
生 花	6	3	四季折々の花で色合いを考え楽しみながら生けるようにし、先生からもアドバイスを受けながら進めた。生けた作品はその都度写真を撮り、園内に飾るようにした。
自 由	20	2	参加者がいきいきと楽しめるような、場の雰囲気作りを大切にし、ゲームや工作を行い、二ヶ月に一回音楽療法の講師を招いて、生き甲斐作りにつながるよう努めた。
四つ葉の集い	2	2	各施設の参加者の希望を聞きながら実施した。車で公園などの公共施設や、施設屋外での活動と、他施設の情報交換や交流を通じて視力障害のある人の励みの場となった。

[別記4]

## 利用者の給食状況調

平成24年度  
入園者 平均99名(緊急、検食、保存食含)

区分 月別	エネルギー	蛋白質		脂肪 エネルギー比(%)	1人1日当り 平均価格 (消費税含む) (円)
		蛋白質(g)	動物蛋白比(%)		
4	1,816	73.9	53.3	23.4	1,018
5	1,805	72.4	52.6	23.5	885
6	1,827	70.0	48.7	23.6	800
7	1,798	69.7	52.8	23.1	825
8	1,826	71.0	52.7	23.3	858
9	1,846	74.0	52.2	24.2	942
10	1,856	72.0	53.1	23.7	862
11	1,811	73.2	52.3	22.4	915
12	1,819	72.4	51.9	22.9	1,091
1	1,829	71.3	51.6	22.7	959
2	1,809	73.7	53.9	22.9	967
3	1,823	73.2	52.7	23.4	921
平均 (1ヶ月)	1,822	72.2	52.3	23.3	920.25
基準値	1,700	60.0	40~50	15~25	920

[別記5]

主 な 実 施 事 項

年 月	実 施 機 関	実 施 内 容	備 考
24.4	当 園	定期健診（利用者全員）  血圧・体重測定	血圧高めにて毎日4人測定 低体重にて食事量増 2名 毎火曜日7名 毎水曜日3名 月2回4名 体重増にて食事減る 1名 体重測定週1回2名・週2回1名
24.4	対 癌 協 会	胃・大腸癌検診  男子：41名 女子：48名	1名 胃要精検施行（胃のポリープあり） 問題なし（センチユリー病院）
24.4 24.5	広 川 内 科 ク リ ニ ッ ク	腹部エコー検査  男子：44名 女子：48名	12名 腎のう胞→経過観察 6名 胆石→経過観察 1名 肝内石灰化→経過観察 1名 肝脂肪→経過観察 1名 水腎症→経過観察 1名 肝血管腫→経過観察 6名 肝のう胞→経過観察
24.6	白 石 中 央 病 院	乳癌検診：27名	27名 異常なし
24.7	対 癌 協 会	乳 癌：17名 子宮癌：16名	乳癌検診 17名→異常なし 子宮癌検診16名→異常なし
24.7	結 核 予 防 会	胸部X-P（間接撮影）  男子：35名 女子：39名	3名 要精検施行（呼吸器） 再検査の結果→3名異常なし
25.2	広 川 内 科 ク リ ニ ッ ク	肺炎球菌ワクチン接種（80歳以上） 男子： 0名 女子：3名	
24.10	当 園	定期健診（利用者全員）  血圧・体重測定	血圧測定（4月と同じ） 1名 体重増にて食事療法（205g） 1名 低体重増にて食事療法（300g） 1名 血圧の薬内服開始（減塩7g）
24.11	当 園	インフルエンザ予防接種	罹患者なし。



## 利用者の状況（措置人員）

(H25. 3. 31 現在)

定員	現在員			
	男性	女性	計	充足率
100人	45人	53人	98人	98%

### 月別人員状況（平成 24 年度）

月別 区分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		月初日人員	95	97	96	94	96	98	99	99	100	98	97	98
入所					4	1		2			1		8	
自己退所													0	
居宅保護													0	
長期入院による退所										1			1	
他施設異動													0	
死亡			1	2			1						4	
一時保護	入所	2	1	0	3	2	1	2	1	0	0	0	0	12
	退所	0	2	1	1	2	1	2	1	2	0	0	0	12
月末現在員	97	96	94	94	98	99	98	100	98	97	98	98	年間平均 97.3	

※は緊急入所からの正式入所

### 在所期間の状況

(H25. 3. 31 現在)

性別 期間	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	計 (人)	平均在所 期間
	男性	4	5	10	7	7	5	7	45
女性	2	3	3	4	6	0	35	53	30年2ヵ月
計(人)	6	8	13	11	13	5	42	98	21年7ヵ月
割合(%)	6.1	8.2	13.3	11.2	13.3	5.1	42.9	100	小数点第二位を 四捨五入

## 利用者年齢状況

(H25. 3. 31 現在)

年 齢 性 別	30 歳 未 満	30 歳 以 上 40 歳 未 満	40 歳 以 上 50 歳 未 満	50 歳 以 上 60 歳 未 満	60 歳 以 上 65 歳 未 満	65 歳 以 上 70 歳 未 満	70 歳 以 上 75 歳 未 満	75 歳 以 上	計	最高	最低	平均 年 齢
	男性	0	0	2	7	11	9	3	13	45	87 歳	44 歳
女性	0	1	0	1	3	6	10	32	53	96 歳	38 歳	75.3 歳
計	0	1	2	8	14	15	13	45	98	総平均 年 齢		71.7 歳
割合(%)	0	1.0	2.0	8.2	14.3	15.3	13.3	45.9	100			

## 障がい・男女程度別調査

(H25. 3. 31 現在)

障がい別	程 度	男 性 (人)	女 性 (人)	計 (人)
身 体 障 が い	重 度	2	1	3
	中 度	4	1	5
	軽 度	0	0	0 (8)
知 的 障 が い	重 度	3	14	17
	中 度	3	3	6
	軽 度	2	1	3 (26)
重 複 障 が い	重 度	4	14	18
	中 度	5	2	7
	軽 度	2	1	3 (28)
精 神 障 が い	重 度	2	3	5
	中 度	9	5	14
	軽 度	4	4	8 (27)
そ の 他	中 度	0	1	1
	軽 度	5	3	8 (9)
合 計 (人)		45	53	98

※ 従来の合併障がいという分類を（精神障がいの重複を含め）重複障がいとする。

(重度障がい 43 名、中度障がい 33 名、軽度障がい 22 名)

## 障がい別調査

(H25. 3. 31 現在)

病 名 性 別	身 体 障 が い		知 的 障 が い	精 神 障 が い	重 複	そ の 他	計 (人)
	視 覚	肢 体 不 自 由					
男性	2	4	8	15	11	5	45
女性	1	1	18	12	17	4	53
計 (人)	3	5	26	27	28	9	98
割合(%)	3.1	5.1	26.5	27.6	28.6	9.2	100

障がい者手帳保持者の状況

(H25. 3. 31 現在)

身体障がい者手帳	1級	2級	3級	4級	5級	6級	計 21 名
	8	7	3	2	0	1	
療育手帳	A 10		B 12		B 0		計 22 名
精神障がい者保健福祉手帳	1級	5	2級	18	3級	2	計 25 名

年金の受給状況

(H25. 3. 31 現在)

種別	障がい基礎年金	老齢基礎年金	障がい厚生年金	老齢厚生年金	老齢基礎 老齢厚生 両方受給	恩給 その他	計
人員	52	6	0	7	0	4	69

利用者の親族等の状況

(H25. 3. 31 現在)

1	2	3	4	5	6	7	8	計
配偶者あり	親あり	子供養子を含むあり	兄弟姉妹あり	1～4以外の親族あり	知人のみ	身寄りなし	不明	(人)
2	2	17	77	20	2	2	0	122

出身世帯との連携状況

(平成 24 年度)

項目	回数					計 (人)
	年 0 回	年 1 回	年 2 回 ～ 5 回	年 6 回 ～ 11 回	年 12 回 以上	
出身世帯の面会状況	80	8	9	1	0	98
出身世帯への状況報告	48	2	41	6	1	98
出身世帯からの通信	64	21	11	2	0	98
外泊の状況	89	4	2	2	1	98

疾病別調査(重複含む)

(H24.4.1~H25.3.31)

内 科	人数	精 神 科	人数	そ の 他	人数
高血圧+その他	27	統合失調症	22	皮膚科	45
糖尿病+その他	11	興奮性知的	4	眼科(白内障含む)	45
消化器疾患	47	てんかん	15	泌尿器科	28
心疾患	8	知的障がい	35	外科及び整形	41
高脂血症	24	認知症	13	耳鼻科	13
呼吸器疾患	19			脳外科	31
そ の 他	19	そ の 他	27	そ の 他	32

入院状況(医療機関の変更や重複者も含む)

(H24年度)

内科	外科	整形外科	精神科	脳外科	眼科	泌尿科	肛門科	耳鼻科	循環器科	呼吸器科	乳腺外科
10	1	3	6	0	1	0	1	0	0	1	0

日常生活調査(ADL状況より)

(H25.3.31現在)

区分	歩行			食事			入浴			着衣			排泄										
	自力歩行	杖等の歩行補助器使用	車椅子使用	歩行不能	自分で可能	一部介助	全面介助	自分で可能	一部介助	全面介助	自分で可能	一部介助	全面介助	昼間				夜間			おむつ使用		
														トイレ			おむつ使用	トイレ					
														自分で可能	一部介助	全介助		車椅子使用	自分で可能	一部介助		全介助	車椅子使用
実数(人)	78	7	13	(13)	93	2	3	55	28	15	78	11	9	79	10	9	(13)	18	74	10	14	(13)	18
割合(%)	79.6	7.1	13.3		94.9	2.0	3.1	56.1	28.6	15.3	79.6	11.2	9.2	80.6	10.2	9.2		18.4	75.5	10.2	14.3		18.4

## 実施機関別人員調（措置人員）

(H25. 3. 31 現在)

各市別人員				各支庁別人員			
実施機関名	男	女	計	実施機関名	男	女	計
札幌市	21	9	30	後志総合振興局	2	3	5
小樽市	1	3	4	空知総合振興局	1	1	2
旭川市	2	4	6	上川総合振興局	1	3	4
室蘭市	0	1	1	留萌振興局	0	1	1
釧路市	1	0	1	オホーツク総合振興局	0	3	3
北見市	0	2	2	胆振総合振興局	1	1	2
夕張市	1	1	2	日高振興局	0	2	2
岩見沢市	0	1	1	十勝総合振興局	1	3	4
紋別市	1	0	1	根室振興局	0	1	1
美唄市	1	1	2	石狩振興局	1	0	1
三笠市	2	2	4				
名寄市	4	6	10				
富良野市	0	2	2				
帯広市	1	0	1				
千歳市	2	1	3				
稚内市	1	0	1				
石狩市	0	1	1				
江別市	0	1	1				
				小計(人)	7	18	25
小計(人)	38	35	73	合計(人)	45	53	98